

令和6年度 第2回向日市子ども・子育て会議

○日 時 令和6年10月3日(木) 午前10時～午前12時

○場 所 永守重信市民会館 2階 第2会議室

○出席者 (出席委員12名)
安藤和彦委員(会長)、池田和子委員、石村丈乃委員、小篠由雅子委員、
海東紗代子委員、小林陽子委員、田中久美子委員、辻知也委員、中川諒委員、
松田美佳委員、宮崎晃平委員、宮地健一委員、
(50音順)

(事務局15人)

【市民サービス部】

柴田市民サービス部長、伊藤市民サービス部副部長、安田市民サービス部副部長、
大野市民サービス部主席課長、藤野健康推進課長、簗内健康推進課主幹、
岩谷障がい者支援課長、紺野子ども家庭課長、沢合子育て支援課主幹、
楠堂子育て支援係長、飯野子育て支援係副係長

【教育部】

水上教育部長、長谷川教育部副部長、浦元文教課長、上西学校教育課担当課長

○欠席者 (委員8人)
稲野有亮委員、上田睦美委員、大川猛委員、佐々木進委員、津田陽委員、
花安肇委員、船倉哲生委員、安場光弘委員
(50音順)

○傍聴者 1名

○議 題 (1) 向日市こども・若者の意識と生活に関する調査の結果について(資料1・2)
(2) 向日市こども計画の骨子案について(資料2・3)
(3) その他

<議題1>向日市こども・若者の意識と生活に関する調査の結果について	
事務局	資料1・2について説明
委員	(主な質疑・意見) 「今の自分が好きだ」が低いのが気になる。アンケートを見ると8割は「自分にはいいところがある」と回答していても、理想像が高いのか、できていない方に目がいって、自分のことが好きになれていないのかなと思う。 親の声かけも、当たり前のことできないときは叱るが、できていても褒めていない。苦手なことやできないこともあると思うが、そういうところがあっても、好きだよっていうのを親としてもこどもに、ちゃんと伝えなきゃいけないのかなと思う。

委員	小学生がインターネットにアクセスできる環境があることに驚く。 中学生ぐらいからスマートフォンの使い方とか SNS の取り扱い方を重点的に教え、危険性について周知していると思うが、もう少し早く教えるべきなのかなと思う。 また、今はこども達の身の回りのおじいちゃん、おばあちゃん、近所のおばさん、おじさんとのつながりが減ってきている中で、若い子の、誰かに自分の心のうちを伝えたいという欲求に対してインターネットがうまくフィットしたなとも思う。それで救われるこどももある程度いると思うので、一概に SNS とかインターネットが悪いとせずに、安全な使い方を大人とか行政とかはしっかり教えてあげるべきだと考える。
委員	ヤングケアラーの問題、特に家庭の問題は、何が起こっているかわかりづらい。福祉と教育がしっかりと連携し、社会全体で、個人情報を確保しつつ子どもの実態が浮かび上がるようなシステム構築が必要だと考える。
委員	困難なご家庭は市でもいろいろと対策をされており、それ以外で見えづらい部分を発見できるのが学校とも思うが、今般、学校の方に求めるものが強すぎるというのも、どうなのだろうと思う。もっと地域の中でも、できることをしないとイケない。
委員	こどもの意見表明権について、私もよくわかってないぐらいで、自分から意見を表明できることを知っていても、表明する子は少ないとは思う。自分から言い出せない子や、自分の気持ちを伝えることが難しい子がたくさんいるので、表明したいけどできない子とか、聞いてみたらこういう意見があるっていうのを、こどもの方に寄り添ってすくい上げていってほしいと思う。
委員	今回のアンケートは小学 4 年生以降を対象としたものだが、こどもの権利を守ることにについては、幼児期にも記載がある。幼児期のこどもの心の代弁は誰がするのか、どういう形が望ましいかを考えてみて、できれば指針として出しておきたい。
＜議題 2＞向日市こども計画の骨子案について	
事務局	資料 2・3 について説明 （主な質疑・意見）
委員	特別支援の子が増えている現状があり、これに対処していかないといけない。支援教育の充実を図るということを基本目標として、「特別支援教育」を生涯教育とするだけではなくて、しっかりと記載していただきたい。

委員	例えば、基本目標 3 のところで、いじめの防止や不登校の問題、特別支援教育の充実を図るなどをいれてほしい。 また、基本目標の案のところで、「妊娠、出産、幼児期」と、「学童、思春期、青年期」とあるが、「就学期」を入れる必要があると考える。この就学期を丁寧にやる必要があるというのは、こども家庭庁の「はじめの 100 か月の育ちビジョン」にも書いてある。こどもに環境変化が起こる時期であり、これをどう支えるかが大事。小 1 問題についてしっかりと記載いただきたい。 現計画の「ことばの相談」の実績について、開催が月 1 だと思うが、相談希望の数と回数の実態に乖離がないかが気になっている。開催は大変だと思うが、月に 1 回、何人までの開催だと、予約が半年先までうまっている現状がある。そうしている間に小学校に上がり、「通級指導教室で相談してください。」とそこで終わってしまうケースがあるので、希望者数と開催回数の乖離がないか、他の相談も含めて丁寧にみてほしい。 基本目標 3 の「教育・保育事業のニーズ、質、量に応じた受け皿の確保」について、学童保育の来年 5 年生 6 年生が学童に入れないが、これはニーズの量に応じた受け皿の確保になれているのか。前回会議で、民間の利用をという話だったが、その民間の受け皿が今後増えているのか、学童に入れない世帯へのフォローや情報の提供などもされているのかも気になる。 また、資料 1 の 10 ページ、「こどもたちのここにいたい」という感じる場所のアンケートで、留守家庭児童会が 11.3%という数字があるので、小学校高学年に対するアンケートで 11.3%というのは見逃してもらいたくない数字かなと思う。
委員	学校施設の利用について、教室もいっぱい使用が困難だと思うが、例えば放課後や夏休みに、図書館を開放していただけるとありがたい。私の子は、今 5 年生で学童をやめて、毎日 1 人で留守番しているが、やっぱり 1 人でいるのが不安らしく、毎日学校の校庭に行かせてもらって、友達と遊んでいる。なんとか学校、施設利用できないかなと思う。 こども大綱の中に、数値目標というのがあったと思うが、数値目標と向日市の現状の比較の表があれば、わかりやすいかなと思う。全項目はなくても、生活に満足しているとか、今の自分が好きとか、将来について明るい希望があるとかの項目は、こども大綱の目標の数値と、今の向日市の現状と比較ができるのではないかなと思う。
委員	小学校 5 年生から 6 年生の居場所が先ほど問題になったが、この居場所をどうするかは、市で考えていかないといけない。そういう意味では基本目標の 1 つの中に「こどもの居場所をつくる」ということを入れるべきだと思う。

委員	基本目標４のところの表現が、私（男性）としてはありがたいと思う。今、世の中の様々な働き方で、男女がともに子育てもしようと思うと、男女がともに育児休業等、男女を隔てなく、並列して記載されているのはありがたいと思う。 個人の主観だが、子育てについて、男性は結構無視されているように感じる。 実態もあると思うが、何か小学校のことをやるときに、保護者の集まりでも、「お母さん」集まってくださいって言われる。世の中の中的にも、「育てて働くお母さんがいる」というのはしっかりと認知、配慮がされていると思うが、「働いて育てているお父さんもいる」というところは、まだ差があると感じる。 こども大綱にも、男性の家事、子育ての主体的な参加と記載があるが、参加も何もあなたが主催者でしょうが、あなたが親でしょうがと思う。 実態としてやっぱり男性の方ができていないところはあると思うが、それを意図したかどうかは別にして、目標のところで男女のところに差をつけずに併記して、書いていただいたというところありがたい。
委員	アンケートの中でも、ちゃんと意見が書いてあり、特に印象に残ったのが、資料１の 70 ページ、学校教育について、「社会で上手に生きていくための制度、そういうことを教えてほしかったと思う」という意見があり、今あるような、命の安全教育という中に、一貫した人権教育、包括的な性教育、主権者教育、道徳、総合の時間だけではなく、家庭科でも、それから国語でも社会でも、保健体育でもそういうことを組み込めるような教育体制っていうのも、作っていただけたらよいのかなと感じた。